

『音楽教育研究』  
第1巻第1号(1939年10月号)

【口絵写真】伊澤修二先生	0(1)
【口絵写真】伊澤修二先生編「小学唱歌」	0(2)
[序]	信時潔 0(3)
【巻頭楽譜】来れや来れ	外山正一作歌 伊澤修二作曲 信時潔 0(4)
【巻頭楽譜】花さく春	伊澤修二作歌作曲 信時潔和声 0(5)
【巻頭楽譜】かり	伊澤修二改作 伊澤修二作曲 信時潔 0(6)
教育音楽の動向	片山穎太郎 2~6
音楽と教育	林博太郎 7~13
伊澤修二先生と初期音楽教育—(明治音楽史稿)	遠藤宏 14~17
伊澤修二先生略伝	[遠藤宏] 18
音楽と衛生(一)	岡田道一 19~22
親心と親馬鹿	中野義見 23~25
銃後の母<詩>	川路柳虹 26~27
歌詞に就いて	河井醉茗 28~29
祝日唱歌『明治節』の取扱ひ方	澤崎定之 30~32
祝日唱歌『明治節』のオルガンの弾き方	奥田耕天 33~34
児童のための楽譜指導に就いて	幾尾純 35~39
新訂小学唱歌『影法師』の遊戯	清水和歌 40~42
小学校時代の唱歌の思ひ出(その一)	
むかしの唱歌	堀内敬三 43~45
うたのおもひで	日夏耿之助 45~47
地下室の唱歌	平井美奈子 47~48
唱歌の思ひ出	草川信 48~49
幼年のころ	水野康孝 49~51
農村の小学生	津久井静子 51
滞欧雑観	長谷川良夫 52~56
海外楽信	56
教育思潮概観	香原一勢 57~59
音楽界彙報	60~61
第一回作曲募集	62
原稿募集・投稿規定	63
編輯後記	64
創刊を祝ひて<短歌>	犬童球溪 64
教材研究(輪講式)	歌詞楽曲 片山穎太郎 70~122 歌ひ方 城多又兵衛 伴奏法 水谷達夫 教授法 井上武士 山本壽
新訂尋常小学唱歌 第一学年用 月	
第二学年用 影法師	
第三学年用 取入れ	
第四学年用 八幡太郎	
第五学年用 いてふ	
第六学年用 秋	
新訂高等小学唱歌 第一学年男子用 満洲の野	
第一学年女子用 子守歌	
第二学年用 明治神宮	
第三学年用 稲刈	

『音楽教育研究』  
第1巻第2号(1939年11月号)

【口絵写真】教室より中継の学校放送(東京高等師範学校付属小学校) スタヂオよりの学校放送(埼玉県大宮尋常小学校児童)	0(1)
【口絵写真】祝祭日唱歌楽譜(明治二十六年刊)	0(2)

【巻頭楽譜】大陸封鎖	中勘助作詞 片山穎太郎作曲	0(3)
【巻頭楽譜】地獄風呂	中勘助作詞 片山穎太郎作曲	0(4)
【巻頭楽譜】ボンボン船	中勘助作詞 片山穎太郎作曲	0(5)
ラヂオと音楽教育	小尾範治	2～7
祝日大祭日唱歌制定史一(明治音楽史稿)一	遠藤宏	8～15
〈『音の世界』第一回〉 第一講 音とは何か	サー・ウィリアム・ブラッグ原著 栗原嘉 名芽訳	16～21
大槻如電翁作の「軍艦唱歌」		21
唱歌教育の方法に就いて	山本壽	22～23
青年希望の歌(詩)	野口雨情	24～25
少年「陸奥の吹雪」大和田建樹先生を追慕して	濱田廣介	26～28
軍歌に殉じた大和田建樹	小林愛雄	28～29
放送と唱歌	沖不可止	30～37
リズム練習について	弘田龍太郎	38～42
唱歌遊戯 菊(庭の千草)	戸倉ハル	43～47
オルガンの弾き方に就いて	奥田耕天	48～49
大人と子供	松原至大	50～51
教育思潮概観	工藤亨	52～54
海外楽信		55
音楽界彙報		56～59
官報音楽関係事項抄録		60～61
第二回作曲募集		62
原稿募集・投稿規定		63
協和音		64～65
編輯後記		66
教材研究(輪講式)	歌詞楽曲 片山穎太郎	70～124
	歌ひ方 澤崎定之	
	伴奏法 水谷達夫	
	教授法 越尾隆 佐藤益喜	
新訂尋常小学唱歌 第一学年用 つみ木		
第二学年用 時計の歌		
第三学年用 日本の国		
第四学年用 霜		
第五学年用 入宮を送る		
第六学年用 出征兵士		
新訂高等小学唱歌 第一学年用 御代の栄		
第二学年用 菊の香		
第三学年用 山茶花三題		

## 『音楽教育研究』

## 第1巻第3号(1939年12月号)

【口絵写真】市民音楽院の斉唱と講習実況		0(1)
【口絵写真】第三回文部省美術展覧会出品画より		0(2)
【巻頭楽譜】冬の歌(新古今和歌集より)	下總皖一作曲	0(3)
音楽と国民性	長谷川如是閑	2～6
芸術音楽と教育音楽	山根銀二	7～12
〈『音の世界』第二回〉 第一講 音とは何か	サー・ウィリアム・ブラッグ原著 栗原嘉 名芽訳	13～21
お猿さんのお家(動物園にて)〈童謡〉	葛原しげる	22～23
音楽と衛生(二)	岡田道一	24～27
官幣大社 近江神宮奉賛歌[楽譜]	近江神宮奉賛会撰歌 東京音楽学校作	27
周囲を顧みて	水野康孝	28～31
朝鮮に於ける音楽教育	吉澤實	32～35
市民音楽院を語る	奥田良三	36～38
吹奏楽講話(一)	春日嘉藤治	39～46
唱歌リレー放送批評(昭和十四年十一月二十日)	澤崎定之	47～51
小学生の時間)批評 「いてふ」(文部省唱歌 尋 五・一九)を聞いて		

小学校時代の唱歌の思ひ出(その二)		
伊澤先生のヴァイオリン	長谷川良夫	52～53
昔の唱歌の思ひ出	大和田愛羅	53～54
唱歌のおもひで	森本覚丹	54～56
子供の頃の唱歌	中野義見	56～57
思ひ出の「雪の曙」	濱田廣介	57～59
大阪に於ける昭和十四年の音楽界の回顧	林雄一郎	60～63
原稿募集・投稿規定		63
音楽界彙報		64～65
第三回作曲募集		66
協和音		67
編輯後記		68
教材研究 (輪講式)	歌詞楽曲 片山穎太郎	73～128
	歌ひ方 矢田部頸吉	
	伴奏法 黒澤愛子 水谷達夫	
	教授法 岩上行忍 山田辰雄	
新訂尋常小学唱歌 第一学年用 兎		
第二学年用 うちの子ねこ		
第三学年用 飛行機		
第四学年用 餅つき		
第五学年用 水師營の会見		
第六学年用 鎌倉		
新訂高等小学唱歌 第一学年用 冬来る		
第二学年男子用 校庭にて		
第二学年女子用 渡り鳥		
第三学年用 煤掃		

## 『音楽教育研究』 第2巻第1号(1940年1月号)

【口絵写真】紀元二千六百年奉祝国民歌発表演		0(1)
【口絵写真】マクス・レーガー		0(2)
【巻頭楽譜】雪ですね	葛原しげる作詞 佐々木すぐる作曲	0(3)
【巻頭楽譜】銃後の母(第一回入選曲)	川路柳虹作詞 石川強作曲	0(4)
紀元二千六百年と日本の音楽	片山穎太郎	2～5
紀元二千六百年頌歌の歌ひ方	澤崎定之	6～10
母の背は(紀元二六〇〇年記念 国民歌謡)[歌		10
マクス・レーガーの生涯	エルンスト・プツェル 伊東勉訳	11～15
〈『音の世界』第三回〉 第二講 音楽に於ける音	サー・ウィリアム・ブラッグ原著 栗原嘉	16～23
椿<詩>	名芽訳	24～25
音を主とした江戸時代のお正月気分	茅野雅子	26～29
音から考察した江戸時代大阪の正月行事	町田嘉章	30～32
正月に縁由ある南蛮楽器チャルメラ考	南木芳太郎	33～36
若き妻(紀元二六〇〇年記念 国民歌謡)[歌詞]	遠藤宏	36
吹奏楽講話(二)	春日嘉藤治	37～41
盲学校に於ける音楽教育	橋本清司	42～45
音楽と現代の日本と	小寺融吉	46～47
思ひ出づる俣に	平原壽恵子	48～50
教育思潮概観	林友春	51～53
教育音楽研究大会の記	岡村勝	54～57
第一回作曲入選発表		58
選者の言葉	信時潔	58～60
音楽界彙報		61～62
海外楽信		63
官報音楽関係事項抄録		64～65
第一回論文募集		66
第四回作曲募集		67
応問		68

協和音		69～70
編輯後記		71
教材研究（輪講式）	歌詞楽曲 片山穎太郎	78～128
	歌ひ方 澤崎定之	
	伴奏法 黒澤愛子 水谷達夫	
	教授法 松本寛郎 小島喜久壽	
新訂尋常小学唱歌	第一学年用 紙鳶の歌	
	第二学年用 雪	
	第三学年用 冬の夜	
	第四学年用 雪合戦	
	第五学年用 兒島高德	
	第六学年用 スキーの歌	
新訂高等小学唱歌	第一学年用 御裳濯川	
	第二学年用 少女のまとみ	
	第三学年用 日の御旗	

### 『音楽教育研究』 第2巻第2号(1940年2月号)

【巻頭楽譜】春の散歩	町田有史作詞 益子九郎作曲	0(1)
【巻頭楽譜】青年希望の歌(第二回入選曲)	野口雨情作詞 小島正雄作曲	0(2)
子供の生活に音楽を感じて	倉橋惣三	2～4
総べての児童に才能あり—指導法についての私	鈴木鎮一	5～10
子供たちは歌ひたがってゐる!	酒井悌	11～15
<『音の世界』第四回> 第二講 音楽に於ける音	サー・ウィリアム・ブラッグ原著 栗原嘉	16～25
小鳥の影<詩>	名芽訳	
歌曲の指導	中西梧堂	26～27
灯心草	海鈴義美	28～30
吹奏楽講話(三)	齋藤潔	31～33
梅の節供 建国祭の歌[楽譜]	春日嘉藤治	34～43
網代の冬	佐々木英作曲	44
海外楽信	武内俊子	45～47
女子教育の動向—教育思潮概観—	奥田美穂	47
第二回作曲入選発表		48～50
第二回募集作曲について	片山穎太郎	51
音楽界彙報		51～53
官報音楽関係事項抄録		54～55
批評と紹介		56～57
第五回作曲募集		58～59
第一回論文募集		60
応問		61
協和音		62
編輯後記		63
教材研究（輪講式）	歌詞楽曲 片山穎太郎	78～128
	歌ひ方 澤崎定之	
	伴奏法 黒澤愛子 水谷達夫	
	教授法 田村範一 河野信一	
新訂尋常小学唱歌	第一学年用 僕の弟	
	第二学年用 梅に鶯	
	第三学年用 私のうち	
	第四学年用 近江八景	
	第五学年用 雛祭	
	第六学年用 雪	
新訂高等小学唱歌	第一学年用(男) 雪の行	
	第一学年用(女) 雛祭の	
	第二学年用 霰三題	
	第三学年用 冬の興	

## 『音楽教育研究』

## 第2巻第3号(1940年3月号)

【口絵写真】フランツ・エッケルト		0(1)
【口絵写真】エッケルト筆「岸の桜」楽譜		0(2)
【巻頭楽譜】世界地図	土岐善麿作詞 長谷川良夫作曲	0(3)
【巻頭楽譜】お猿さんのお家(第三回入選曲)	葛原しげる作詞 猪股徳一作曲	0(4)
教育に於ける音楽	入澤宗壽	2~7
エッケルトと教育音楽—(明治音楽史稿)—	遠藤宏	8~11
紀元二千六百年	有馬大五郎	12~13
南の海にて<詩>	武内俊子	14~15
<『音の世界』第五回> 第三講 街の音	サー・ウィリアム・ブラッグ原著 栗原嘉	16~24
	名芽訳	
台湾に於ける音楽教育	筑摩三朗	25~28
吹奏楽講話(四)	春日嘉藤治	29~31
進軍間奏譜	石塚響一	32~38
支那音楽ばなし	後藤和夫	39~43
唱歌リレー放送(昭和十五年二月十二日 小学生の時間)批評 「兒島高德」(文部省唱歌 尋五・二)	中野義見	44~47
技術教育の展望—教育思潮概観—	中村新太郎	48~50
海外楽信		50
第三回作曲入選発表		51
選者の言葉	下總皖一	51~52
音楽界彙報		53~54
官報音楽関係事項抄録		55~56
批評と紹介		57
第六回作曲募集		58
応問		59~60
協和音		61~62
編輯後記		63
教材研究 (輪講式)	歌詞楽曲 片山穎太郎	72~128
	歌ひ方 澤崎定之	
	伴奏法 黒澤愛子 水谷達夫	
	教授法 新藤武 月岡忠三	
新訂尋常小学唱歌 第一学年用 花咲爺		
第二学年用 浦島太郎		
第三学年用 摘草		
第四学年用 何事も精神		
第五学年用 卒業生を送る		
第六学年用 卒業の歌		
新訂高等小学唱歌 第一学年用 送別の歌		
第二学年用 告別の歌		
第三学年用 興国の民		

## 『音楽教育研究』

## 第2巻第4号(1940年4月号)

【巻頭楽譜】町の小父さん	武内俊子作詞 安部幸明作曲	0(1)
【巻頭楽譜】椿(第四回入選曲)	茅野雅子作詞 中川徹作曲	0(2)
特輯 音楽鑑賞教育		
音楽鑑賞教育の目的と範囲	堀内敬三	2~5
音楽に於ける観照に就いて	薄金兼次郎	6~10
幼児の音楽鑑賞教育	弘田龍太郎	11~14
家庭に於ける音楽の鑑賞教育	藤井夏人	15~18
私のレコードに依る音楽鑑賞指導要諦	柴田知常	19~24
国民学校と音楽鑑賞教育	近藤仙次郎	25~27
音楽鑑賞教育とラヂオ放送	沖不可止	28~32

小学校に於ける音楽鑑賞教育(入選論文)	庄山茂吉	33~37
小学校に於ける音楽鑑賞教育(入選論文)	井坂教	38~43
第一回歌詞募集		32
ドイツ人と音楽	宮内鎮代子	44~46
海外楽信		46
<『音の世界』第六回> 第三講 街の音	サー・ウィリアム・ブラッグ原著 栗原嘉	47~53
	名芽訳註	
祝日唱歌「天長節」の歌ひ方	澤崎定之	54~55
吹奏楽講話(五)	春日嘉藤治	56~60
音楽随想	瀬戸口藤吉	61~63
第一回論文入選発表		63
三匹の熊公(スリー・ベアズ) <人形芝居>	南江治郎	64~69
社会教育の転換—教育思潮概観—	平湯一仁	70~72
第四回作曲入選発表		73
選者の言葉	信時潔	73
音楽界彙報		74
官報音楽関係事項抄録		75~76
応問		77
協和音		78
編輯後記		79
教材研究 (輪講式)	歌詞楽曲 片山颯太郎	87~128
	歌ひ方 澤崎定之	
	伴奏法 黒澤愛子 水谷達夫	
	教授法 今吉惺 鈴木富三	
新訂尋常小学唱歌 第一学年用 日の丸の旗		
第二学年用 桜		
第三学年用 春が来た		
第四学年用 かげらふ		
第五学年用 金剛石・水は		
第六学年用 遠足		
新訂高等小学唱歌 第一学年用 春の曲		
第二学年用 千里の春		
第三学年用 花見		

## 『音楽教育研究』 第2巻第5号(1940年5月号)

【巻頭楽譜】心の影	福田滋子作詞 片山颯太郎作曲	0(1)
【巻頭楽譜】小鳥の影(第五回入選曲)	中西悟堂作詞 林つや子作曲	0(2)
特輯		
国民学校芸能科音楽私讃	片山颯太郎	2~5
国民学校案の芸能科音楽に対する希望	堀内敬三	6~11
国民学校に於ける芸能科音楽に対する二つの	中野義見	12~17
思ひついたまゝに	酒井悌	18~23
ナチス・ドイツの音楽教育	エルンスト・プツェル 伊東勉訳	24~27
柏林日本人学校の一年間	平原壽恵子	28~35
<『音の世界』第七回> 第四講 田舎の音	サー・ウィリアム・ブラッグ原著 栗原嘉	36~39
	名芽訳註	
音楽のある生活	柏熊君子	40~43
歌詞募集		43
吹奏楽講話(六)	春日嘉藤治	44~49
唱歌教育の体験を語る—私の歩んできた道—	熊倉はるみ	50~53
海外楽信		53
教育思潮概観 小学校教育俸給道府懸賞支弁を	香原一勢	54~56
第五回作曲入選発表		57
選者の言葉	片山颯太郎	57
音楽界彙報		58
国民学校教則案(抄録)		58
官報音楽関係事項抄録		59~60

応問		61
協和音		62
編輯後記		63
教材研究 (輪講式)	歌詞楽曲 片山颯太郎	75~128
	歌ひ方 澤崎定之	
	伴奏法 黒澤愛子 水谷達夫	
	教授法 坂口五郎 池田浩	
新訂尋常小学唱歌	第一学年用 鳩 兵隊さん	
	第二学年用 二宮金次郎	
	第三学年用 木の芽	
	第四学年用 蚕	
	第五学年用 舞へや舞へ	
	第六学年用 瀬戸内海	
新訂高等小学唱歌	第一学年用 鯉幟	
	第二学年用 羽衣	

### 『音楽教育研究』 第2巻第6号(1940年6月号)

【巻頭楽譜】野うばら	町田有史作詞 益子九郎作曲	0(1)
【巻頭楽譜】南の海(第六回入選曲)	武内俊子作詞 志賀静男作曲	0(2)
芸能科の教育	入澤宗壽	2~6
教育音楽の発達	ハンス・ヨアヒム・モーゼル 牧定忠訳	7~15
海外楽信		15
音楽教師論	田口鷲雄	16~19
学校放送聴取とその取扱方	平塚新次郎	20~24
<『音の世界』第八回> 第四講 田舎の音	サー・ウィリアム・ブラッグ原著 栗原嘉	25~29
	名芽訳註	
興亜建設の歌<詩>	南江治郎	30~31
「抒情詩曲」の一年	水野忠恂	32~37
吹奏楽講話(七)	春日嘉藤治	38~43
鼓笛隊とは	鈴木正三	44~50
韻律の日本的伝統	田宮虎彦	51~54
作家の日記から一 一九二八年 一	フランツ・モルナール 松室重行訳	55~58
教育音楽漫筆一若き楽友へ贈る一	石塚響一	59~64
教育思潮概観 筆記試験に対する批難	香原一勢	65~67
文検音楽科予備試験問題(昭和十五年四月)		68
第六回作曲入選発表		69
選者の言葉	下總皖一	69~70
音楽界彙報		70
官報音楽関係事項抄録		71~72
第七回作曲募集		73
応問		74
協和音		75
編輯後記		76
教材研究 (輪講式)	歌ひ方 澤崎定之	85~128
	伴奏法 黒澤愛子 水谷達夫	
	教授法 荒木得三 岡村勝	
新訂尋常小学唱歌	第一学年用 電車ごっこ	
砂あそび		
	第二学年用 折紙 竹の子	
	第三学年用 青葉	
	第四学年用 藤の花	
	第五学年用 朝日は昇りぬ	
	第六学年用 我れは海の子	
新訂高等小学唱歌	第一学年用 太平洋	
	第二学年用 蓑虫	

## 『音楽教育研究』

## 第2巻第7号(1940年7月号)

【巻頭楽譜】見渡せば(古今和歌集より)	素性法師[作歌] 片山穎太郎作曲	0(1)
【巻頭楽譜】やどりして(古今和歌集より)	紀貫之[作歌] 片山穎太郎作曲	0(2)
【巻頭楽譜】わが宿の(古今和歌集より)	よみ人しらず 片山穎太郎作曲	0(3)
【巻頭楽譜】秋来ぬと(古今和歌集より)	藤原敏行[作歌] 片山穎太郎作曲	0(4)
【巻頭楽譜】白雲に(古今和歌集より)	よみ人しらず 片山穎太郎作曲	0(5)
鑑賞法には純粹音楽を用ひよ	湯浅永年	2~8
合唱に就いて[(一)]	酒井悌	9~14
ファシスト伊太利の音楽教育	柏熊君子	15~18
作曲学講座「フーゲ」[(一)]	ステファン・クレール著 片山穎太郎訳	19~25
はたおり虫<詩>	武内俊子	26~27
<『音の世界』第九回> 第四講 田舎の音	サー・ウィリアム・ブラッグ原著 栗原嘉	28~34
教育放送に於ける音楽の形式	名芽訳註	
北支の音楽風景	片桐顯智	35~38
第五十四回全国訓導(音楽)協議会の記	松本四郎	39~42
教育思潮概観—現代政治教育の動向—	岡村勝	43~48
文部省検定(音楽)受験記	周郷博	49~51
応問 国民学校の器楽	川澄健一	52~53
音楽界彙報		54~55
官報音楽関係事項抄録		56
第八回作曲募集		57~58
協和音		59
編輯後記		60
教材研究(輪講式)		61
	歌詞楽曲 片山穎太郎	68~120
	歌ひ方 澤崎定之	
	伴奏法 黒澤愛子 水谷達夫	
	教授法 阿保寛 佐藤禎治	
新訂尋常小学唱歌 第一学年用 かたつむり		
第二学年用 金魚 こだま		
第三学年用 蛍		
第四学年用 夏の月		
第五学年用 風鈴		
第六学年用 森の歌		
新訂高等小学唱歌 第一学年用 登山		
第二学年用 月見草		

## 『音楽教育研究』

## 第2巻第8号(1940年8月号)

【巻頭楽譜】線香花火	齋藤潔作詞 柏木俊夫作曲	0(1)
国民学校芸能科総説	音楽教育研究会	2~11
絶対音感教育に関する疑義	津川主一	12~15
合唱に就いて[(二)]	酒井悌	16~21
レコード利用の危険性	有坂愛彦	22~25
作曲学講座「フーゲ」[(二)]	ステファン・クレール著 片山穎太郎訳	26~29
望郷の花<詩>	勝承夫	30~31
音楽の修行と年齢	岡田次郎	32~34
<『音の世界』第十回> 第五講 海の音	サー・ウィリアム・ブラッグ原著 栗原嘉	35~40
海外楽信	名芽訳註	40
映画に於ける音楽の教化性	薄金兼次郎	41~44
舞踊解放	澁井二夫	45~47
音と生活	沖不可止	48~51
[ ]	寺島	51
趣味に惹かれて	森本治吉	52~55
はまなす(入選歌詞)	喜多章	56
教育思潮概観 東亜教育大会を通して見たる	香原一勢	57~58



音楽界彙報		59
官報音楽関係事項抄録		60～61
文部省推薦レコード		60～61
第九回作曲募集		62
応問		63～64
協和音		65
編輯後記		66
教材研究（輪講式）	歌詞楽曲 片山穎太郎	71～116
	歌ひ方 澤崎定之	
	伴奏法 黒澤愛子 水谷達夫	
	教授法 山田邦彦 久木原定助	
新訂尋常小学唱歌	第一学年用 朝顔 夕立	
	第二学年用 小馬 蟬	
	第三学年用 波	
	第四学年用 夢	
	第五学年用 海	
	第六学年用 瀧	
新訂高等小学唱歌	第一学年用 秋近し	
	第二学年用 夕立そそぐ	

## 『音楽教育研究』

## 第2巻第9号（1940年9月号）

【巻頭楽譜】はまなす（入選歌詞）	喜多章作詞 長谷川良夫作曲	0(1)
【巻頭楽譜】興亜建設の歌（第七回入選曲）	南江治郎作詞 松岡敏雄作曲	0(2)
国民学校音楽科の基礎訓練の問題	片山穎太郎	2～5
音楽教育を廻る最近の論議について	高野瀏	6～13
絶対音感教育の難点	青柳善吾	14～24
〈新刊紹介〉バッハの生涯 シュヴァイツァ著 津川 主一訳		24
音名・階名の問題について	橋本清司	25～34
ヨーデの歌謡集「ムジカント」について（一）	福井直弘	35～41
古靴ホテル〈詩〉	水谷まさる	42～43
音楽教育雑感	近森一重	44～48
〈『音の世界』第十一回〉 第五講 海の音	サー・ウィリアム・ブラッグ原著 栗原嘉 名芽訳註 峯村三郎	49～57 58～62
撥音「ン」の考察		62
海外楽信		63～71
師範学校に於ける器楽教授の実際（一）		72～75
海風記	乙寺與志夫	76
第七回作曲入選発表		76
選者の言葉	信時潔	76
官報音楽関係事項抄録		77～78
第十回作曲募集		79
協和音		80
編輯後記		81
教材研究（輪講式）	歌詞楽曲 片山穎太郎	85～130
	歌ひ方 澤崎定之	
	伴奏法 黒澤愛子 水谷達夫	
	教授法 田中義人 村田榮吉	
新訂尋常小学唱歌	第一学年用 ひよこ 一番 ぼし見つけた	
	第二学年用 ポプラ 富士	
	第三学年用 噴水	
	第四学年用 牧場の朝	
	第五学年用 山に登りて	
	第六学年用 鳴門	
新訂高等小学唱歌	第一学年用 昭憲皇太后	
	第二学年用 野分	

## 『音楽教育研究』

## 第2巻第10号(1940年10月号)

【巻頭楽譜】お留守部隊	島田芳文作詞 野村茂作曲	0(1)
【巻頭楽譜】はたおり虫([第八回入選曲])	武内俊子作詞 村瀬謙作曲	0(2)
絶対音感教育の是非	田村虎藏	2~5
音楽の国家統制を	門馬直衛	6~14
音楽教育新体制の第一歩	原田彦四郎	15~17
ヨーデの歌謡集「ムジカント」に就いて(二)	福井直弘	18~29
草のわが家<詩>	喜志邦三	30~31
農村の娯楽問題—特に農村劇について—	園池公功	32~36
教育の新体制—外国語軽視の傾向に就いて—	吹田順助	37~42
音楽界彙報		42
日本文学の特質	久松潜一	43~47
批評と紹介		48~50
<『音の世界』第十二回> 第六講 戦時の音	サー・ウィリアム・ブラッグ原著 栗原嘉	51~57
国民音楽教育試案	名芽訳註	58~59
ピアノの弾き方指導(第一講)	平井保喜	60~69
師範学校に於ける器楽教授の実際(二)	黒澤愛子	70~81
愛の人 ベートーヴェン [批評と紹介]		81
佐貫行<随筆>	武内俊子	82~83
モザールのふるさとの一と日<随筆>	下二三十	84
橋田文相と文政の根本方策—殊に教学と科学との一致について—	香原一勢	85~88
第八回作曲入選発表		89
選者の言葉	片山穎太郎	89
はたおり虫[楽譜]	[武内俊子作詞] 前田蘆舟作曲	90
はたおり虫[楽譜]	[武内俊子作詞] 林つや子作曲	91
第十一回作曲募集		92
応問		93
編輯後記		94
教材研究(輪講式)	歌詞楽曲 片山穎太郎	100~144
	歌ひ方 澤崎定之	
	伴奏法 黒澤愛子 水谷達夫	
	教授法 太田司郎 林喬木	
新訂尋常小学唱歌 第一学年用 池の鯉 菊の		
第二学年用 かけっこ 案		
第三学年用 赤とんぼ		
第四学年用 靖国神社		
第五学年用 秋の山		
第六学年用 故郷		
新訂高等小学唱歌 第一学年用 高嶺の月		
第二学年用 秋草		

## 『音楽教育研究』

## 第2巻第11号(1940年11月号)

【巻頭楽譜】父を迎へる歌	乙寺與志夫作詞 平井保喜作曲	0(1)
新時代の音楽	片山穎太郎	2~5
国民教育としての音楽教育	エルンスト・プツェル 伊東勉訳	6~12
海外楽信		12
音楽的断想	宮澤俊義	13~16
音楽界彙報		16
音楽理論教育の内容と構成	イ・ルウイジキン 多田恒夫訳	17~23
大和乙女<詩>	島田芳文	24~25
ヨーデの歌謡集「ムジカント」について(三)	福井直弘	26~33
<『音の世界』第十三回> 第六講 戦時の音	サー・ウィリアム・ブラッグ原著 栗原嘉	34~39
	名芽訳註	

整調の問題	伊藤完夫	40～46
明暗	金町京助	47
批評と紹介		48～50
■鋼鉄を使はぬ楽器		50
ピアノの弾き方指導(第二講)	黒澤愛子	51～53
師範学校から見た初等音楽教育[(一)]	小島喜久壽	54～57
思ひ出のテスト盤<随筆>	勝承夫	58～59
<音楽教室>唱歌科担任者へ	瀬戸尊	60～61
文部省主催聴覚訓練を主とする音楽講習会記	岡村勝	62～66
国語教育の思潮<教育思潮>	三尾砂	67～69
第十二回作曲募集		70
応問		71
編輯後記		72
教材研究(輪講式)	歌詞楽曲 片山穎太郎	81～128
	歌ひ方 澤崎定之	
	伴奏法 黒澤愛子 水谷達夫	
	教授法 品川三郎 清田竹男	
新訂尋常小学唱歌 第一学年用	鳥 木の芽	
第二学年用	がん 紅葉	
第三学年用	麦まき	
第四学年用	山雀	
第五学年用	大塔宮	
第六学年用	明治天皇御	
新訂高等小学唱歌 第一学年用	村時雨	
第二学年用	実のりの秋	

## 『音楽教育研究』

## 第2巻第12号(1940年12月号)

【巻頭楽譜】冬の旅	山岸曙光子作詞 町田等作曲	0(1)
【巻頭楽譜】望郷の花([第九回入選曲])	勝承夫作詞 中川徹作曲	0(2)
健全なる娯楽と民衆音楽	増澤健美	2～5
青年と文化	高野瀏	6～10
ヨーデの歌謡集「ムジカント」に就いて(四)	福井直弘	11～18
音楽社会学[(一)]	P・A・ソローキン M・M訳	19～27
■文部省紹介レコード ■楽譜の別扱陳情		27
少年詩篇<詩>	立原道造	28～29
今年の教育音楽界を顧みて	中野義見	30～35
作曲界所感	諸井三郎	35～36
明暗	金町京助	37
師範学校からみた初等音楽教育(二)	小島喜久壽	38～40
ピアノの弾き方指導(第三講)	黒澤愛子	41～46
音楽界彙報		46
「ウタノホン」への希望 編纂委員諸氏に呈す	近森一重	47～49
<音楽教室>唱歌教授の要諦	大貫義一	50～51
レコード界		52
モツァルト伝	スタンダール 竹村猛訳	53～56
或日の感想<随筆>	平原壽恵子	57～60
海外楽信		60
杏花咲く村<劇>	吉松祐一	61～63
科学教育について<教育思潮>	香原一勢	64～67
第九回作曲入選発表		68
選者の言葉	下總皖一	68～69
文部省所定昭和十六年度音楽科教科用図書一		70～71
音楽界彙報		72
応問		73
編輯後記		74
教材研究(輪講式)	歌詞楽曲 片山穎太郎	80～120

歌ひ方 澤崎定之  
 伴奏法 黒澤愛子 水谷達夫  
 教授法 中原都男 鈴木寛

新訂尋常小学唱歌 第一学年用 おきやがりこ  
 ぼし 親の恩

第二学年用 蛙と蜘蛛  
 第三学年用 豊臣秀吉  
 第四学年用 廣瀬中佐  
 第五学年用 冬景色  
 第六学年用 齊藤實盛  
 新訂高等小学唱歌 第一学年用 紫式部  
 第二学年用 我が家

## 『音楽教育研究』

## 第3巻第1号(1941年1月号)

【巻頭楽譜】雪	三好達治作詞 野村茂作曲	0(1)
【巻頭楽譜】春の岬	三好達治作詞 野村茂作曲	0(2)
【巻頭楽譜】古靴ホテル([第十回]入選曲)	水谷まさる作詞 美濃島駒之助作曲	0(3)
新春断想	片山穎太郎	2~5
楽壇新体制について	清瀬保二	6~10
シューベルトの連歌曲「冬の旅」(一)	二見孝平	11~18
■中響演奏会延期 ■三十団体が音楽行進 ■ 国民音楽院開校 ■お医者さんの合唱団旗揚げ ■ストコフスキー帰る		18
明暗	金町京助	19
七つの声我を誘ふ<詩>	江頭彦造	20~21
コンマの問題	伊藤完夫	22~29
ヨーデの歌謡集「ムジカント」について(五)	福井直弘	30~37
<音楽教室>新しき出発	竹森實藏	38~39
音楽社会学(二)	P・A・ソローキン M・M訳	40~51
師範学校からみた初等音楽教育(三)	小島喜久壽	52~55
作曲学講座「フーゲ」[(三)]	ステファン・クレール 片山穎太郎訳	56~65
モツァルト伝	スタンダール 竹村猛訳	66~71
進軍回想譜	石塚響一	72~75
聴覚訓練法の実際	岡村勝	76~78
第十回作曲入選発表		79
選者の言葉	信時潔	79
音楽界彙報		80
編輯後記		81
教材研究(輪講式)	歌詞楽曲 片山穎太郎	89~120
	歌ひ方 澤崎定之	
	伴奏法 黒澤愛子 水谷達夫	
	教授法 吉田照十方 岡村勝	

新訂尋常小学唱歌 第一学年用 雪達磨  
 第二学年用 ラヂオ  
 第三学年用 川中島  
 第四学年用 村の鍛冶屋  
 第五学年用 みがかずば  
 第六学年用 日本三景  
 新訂高等小学唱歌 第一学年用 希望  
 第二学年用 聖恩

## 『音楽教育研究』

## 第3巻第2号(1941年2月号)

【巻頭楽譜】新月の歌	勝承夫作詞 渡鏡子作曲	0(1)
【巻頭楽譜】草のわが家([第十一回]入選曲)	喜志邦三作詞 林つや子作曲	0(2)
観音芸術の提唱	片山穎太郎	2~5
ナチスの音楽教育	植村敏夫	6~8

シューベルトの連歌曲「冬の旅」(二)	二見孝平	9~16
作曲学講座「フーゲ」[(四)]	ステファン・クレール 片山穎太郎訳	17~20
ピアノの弾き方指導(第四講)	黒澤愛子	21~25
原稿募集		25
小曲<詩>	小山正孝	26~27
音楽社会学(三)	P・A・ソローキン M・M訳	28~33
[ ]	金町京助	33
レコード界		34
授業・研究・応用	香原一勢	35~39
■市民へ贈る健全な慰安 ■日本放送協会が組織改革 ■満洲音楽文化の建設		39
<音楽教室>スタート線上の音楽教育	荒赴彦	40~41
国民学校低学年に於ける和音訓練及楽譜指導に	紺野五郎	42~44
対する一考察		
聴覚訓練法の実際(二)	岡村勝	45~46
<紹介と批評>		
兼常清佐著 ショパン		47
大田黒元雄著 ワアグナー		48
小松雄一郎選訳 ベートーヴェン書簡集		48~49
ユリウス、カップ著 高野瀏訳 フランツ・リスト伝		49~50
雪日抄<随筆>	乙寺與志夫	51~55
作曲応募についての感想	林つや子	56~57
第十一回作曲入選発表		58
選者の言葉	片山穎太郎	58
音楽界彙報		59
編輯後記		60
教材研究(輪講式)	歌詞楽曲 片山穎太郎	66~108
	歌ひ方 澤崎定之	
	伴奏法 黒澤愛子 水谷達夫	
	教授法 湯山五策 小菅和江	
新訂尋常小学唱歌 第一学年用 人形 桃太郎		
第二学年用 田植 雨 母		
の心 那須与一		
	第三学年用 かぞへ歌	
	第四学年用 みなかの四季	
	第五学年用 三才女	
	第六学年用 夜の梅	
新訂高等小学唱歌 第一学年用 幼き頃の思出		
第二学年用 吉野の宮居		

## 『音楽教育研究』

## 第3巻第3号(1941年3月号)

【巻頭楽譜】大和乙女(〔第十二回〕入選曲)	島田芳文作詞 林つや子作曲	0(1)
国民学校芸能科『ウタノホン』編纂趣旨	角南元一	2~7
特輯「音楽の職域を語る」		
音楽教育者の新使命	岩井義郎	8~11
儀式並に諸行事と音楽	中野義見	12~17
教育音楽放送	沖不可止	18~24
学校吹奏楽団の活動の活動	廣岡九一	25~30
黒人の合唱団と合唱曲	津川主一	31~37
流行歌と芸術歌謡の境—職域に於ける感想—	武川寛海	38~42
手合図	橋本清司	43~47
折にふれて	岡村勝	48~49
神保環一郎著 レコード音楽 軽音楽を囲みて<紹介と批評>		17
朱謙之著 中村嗣次訳 支那音楽史[<紹介と批評>		24
■踏出した音楽新体制 ■国民歌謡放送中止		30
夢の一時<詩>	中村眞一郎	50~51

声	齋藤潔	52～54
ふる里の土を思ふ	武内俊子	55～58
<音楽教室>芸能科音楽指導私観	山根毅	60～61
音楽社会学(四)	P・A・ソローキン M・M訳	62～69
メルスマン「音楽通論」について	長廣敏雄	70～77
レコード界		77
入学試験その他	田宮虎彦	78～81
第十二回作曲入選発表		82
選者の言葉	下総皖一	82～83
特輯		
国民学校芸能科音楽について	音楽教育振興会会員	84～122
教育・音楽雑誌について	音楽教育振興会会員	123～127
海外楽信		127
編輯後記		128

## 『音楽教育研究』

## 第3巻第4号(1941年4月号)

皇后陛下御誕辰奉祝歌 [楽譜]	詞 佐佐木信綱謹作 曲 信時潔謹作	0(1)
【巻頭楽譜】ぼくらの大陸	巽聖歌作詞 片山颯太郎作曲	0(2)
【巻頭楽譜】朝の自転車	長田恒雄作詞 杉田潤一作曲	0(3)
皇后陛下御誕辰奉祝歌に就いて	佐佐木信綱謹記	2～3
皇后陛下御誕辰奉祝歌の作曲に就いて	信時潔謹記	4～5
特輯 「コドモと音楽」		
コドモと手工と音楽	片山颯太郎	6～10
児童と仏教音楽	藤井清水	11～15
こどもとレコード	柴田知常	16～20
子供の舞踊	澁井二夫	21～26
子供とヴァイオリン	藤田経秋	27～29
子供とリズム	上田友龜	30～35
こどもとうたひ方	岡村勝	36～41
託された一人の女兒について	原田彦四郎	42～48
■新生中国「建国歌」		20
■満洲国建国十年祝典序曲		41
音楽界彙報		49
ドイツの豚と煙突掃除	平原壽恵子	50～53
童心童話	きた・あきら	54～55
支那の子供	竹内好	56～58
音楽と詩[(一)]	アンドレ・シュアレス 中村眞一郎訳	59～63
明暗	河内三郎	64～65
独逸の歌詞は日本訳で歌ふべきか	エルンスト・プッチェル 丸山武夫訳	66～69
日本的半音と西洋的半音	伊藤完夫	70～75
■日本子守歌		75
作曲学講座「フーゲ」[(五)]	ステファン・クレール 片山颯太郎訳	76～83
レコード界		84
筑後川のほとりにて	乙寺與志夫	85～88
国語問題	宮嶋夏樹	89～91
新訂尋常小学唱歌 教材研究索引		92～93
新訂高等小学唱歌 教材研究索引		94
編輯後記		95

## 『音楽教育研究』

## 第3巻第5号(1941年5月号)

【巻頭楽譜】陽ざしの歌	藤浦洸作詞 安部幸明作曲	0(1)
【巻頭楽譜】五月野	村野四郎作詞 高田信一作曲	0(2)
特輯「青年と音楽」		
次代の青年と音楽	山崎謙	2～7
青年と音楽	有馬大五郎	8～11

今日の青年と音楽	福井直弘	12～17
青年とレコード音楽	神保環一郎	18～21
青年と作詞一点描風の随想一	喜志邦三	22～27
都塵独語	河内三郎	28～29
独逸の復活祭	宮内鎮代子	30～34
<新刊紹介>西洋音楽史 パウル・ベッカー 著 河		34
上徹太郎訳		
音楽界彙報		35～36
南方の音楽		
バリ島の音楽と舞踊	伊藤祐司	37～43
泰国の音楽事情	クラウス・プリングスハイム ハンス・エリック	44～48
	ク・プリングスハイム訳	
タイ国の楽器について	黒澤隆朝	49～56
音楽と詩〔二〕]	アンドレ・シュアレス 中村眞一郎訳	57～62
音楽に於ける歌詞の問題	勝承夫	63～69
レコード界		70
西洋音楽史概説〔一〕]	カール・ネッフ 牧定忠訳	71～74
■アメリカ楽壇の近状		74
特輯「青年と音楽」		
地方の青年と音楽新体制	田村範一	75～77
地方の青年と音楽	生塚原子	77～80
地方の青年と歌謡	石村恵三	80～82
■独逸「音楽大学」 ■「スターリン賞」		82
黎明を走る朝鮮音楽界	大場勇之助	83～86
北京音楽印象記	寶井眞一	87～91
明暗	岡村勝	92～93
新緑随想		
新緑と音楽	鎌尾武男	94～99
花と新緑と音楽と	林喬木	99～102
新緑と民謡と	町田等	103～107
新緑のころ	中原都男	107～110
アイヌの謡	津田甫	110～113
歌曲募集		113
編輯後記		114

## 『音楽教育研究』

## 第3巻第6号(1941年6月号)

【巻頭楽譜】日本の窓	中村伊左治作詞 長谷川良夫作曲	0(1)
【巻頭楽譜】雀の宿	勝承夫作詞 片山頼太郎作曲	0(2)
特輯「歌謡に就いて」		
現代歌謡の再検討	藤田徳太郎	2～9
新歌曲の要望について	増澤健美	10～14
歌謡の現状から	長田恒雄	15～18
歌謡とアクセントの問題	大西雅雄	19～24
歌謡雑感	上田穆	25～28
詩と歌謡	風巻景次郎	29～35
言葉<詩>	笹澤美明	36～37
今日の独逸の青年と音楽	エルンスト・プツェル 三浦靱郎訳	38～44
厚生音楽三ヶ月	野村茂	45～48
青年と歌謡	赤岸幸輔	49～53
四天王寺聖霊舞楽		53
明暗	河内三郎	54～55
邦訳歌詞の問題	石倉小三郎	56～61
■日伊親善歌劇の夕 ■シュナイダー女史来朝		61
■ヂムバリスト音楽学校長へ		
外国歌謡の翻訳について	藤浦洗	62～65
音楽界彙報		66
中学校の音楽	青田勝	67～70

女学生の音楽教育学[(一)]	小泉洽	71~79
軽楽器と学校音楽		80~84
レコード界		85
ロシア民謡 [(一)]	テ・ポポーワ 多田恒夫訳	86~90
音楽と詩[(三)]	アンドレ・シュアレス 中村眞一郎訳	91~96
西洋音楽史概説(二)	カール・ネッフ 牧定忠訳	97~101
抗日支那の音楽運動	T・R・S	102
彩色宣撫	勝本耕	103~107
日本詩歌に見られる一の性格	吉田眞三	108~112
■民謡採譜録音行		112
編輯後記		113

## 『音楽教育研究』

## 第3巻第7号(1941年7月号)

【口絵写真】ウインの夏 ベートーヴェンを偲ぶ音 属啓成撮影		0(1)
楽の集ひ 初夏の郊外 音楽的な農夫の家庭		
【巻頭楽譜】わが窓	笹澤美明作詞 中田一次作曲	0(2)
【巻頭楽譜】ヨットの歌	安藤一郎作詞 酒井悌作曲	0(3)
【巻頭楽譜】十字街の昼(入選楽曲)	片平庸人作詞 林つや子作曲 片山颯太郎編曲	0(4)
特輯 『家庭と音楽』		
家庭と音楽	弘田龍太郎	2~5
音楽に対する新しい態度	山崎謙	6~12
ピアノ音楽の教授法について	伊達愛	13~17
うたのおはなし	ダンミチ子	18~23
箏について	中能島欣一	24~27
箏について	那智蒼生子	28~35
長唄について	鳥居ツナ	36~41
尺八について	中尾都山	42~44
国民生活とハーモニカ	宮田東峰	45~50
ドイツの文化工作		17
音楽界彙報		51~52
ウインの夏	属啓成	53~58
フランスの音楽生活	倉田高	59~65
漂流<詩>	藪田義雄	66~67
公園奏楽の今昔	春日嘉藤治	68~72
明暗	河内三郎	74~75
リヒルト・ワーグナーと猶太人	E.プツェル KL・プツェル 丸山武	76~82
ピアノの起源・変遷について(一)	宮内鎮代子	83~90
■日独合作の歌劇 ■パデレフスキー急逝		90
音楽学校見聞記	岡村勝	91~96
音楽に就て	伊藤情報局総裁談	91~96
文検音楽科予備試験問題 昭和十六年四月		97~98
即興作する人	アンドレ・シュアレス 中村眞一郎訳	99~104
ロシア民謡 [(二)]	テ・ポポーワ 多田恒夫訳	105~109
女学生の音楽教育学[(二)]	小泉洽	110~118
応募歌曲入選発表と講評	片山颯太郎	119~123
教育的断想—初夏の旅から—	井本農一	124~126
編輯後記		127

## 『音楽教育研究』

## 第3巻第8号(1941年9月号)

【巻頭楽譜】大日本青少年団国歌	大日本青少年団選定	0(1)
国民生活と音楽	権田保之助	2~7
時局と軽音楽	水野忠恂	8~12
詩は先行す	河井醉茗	13~16
新体制下の音楽	島田芳文	17~20
君が代の由来		20



国民音楽に就て	武川寛海	21～26
東北民謡を聴く[(一)]	藤井清水	27～29
いらない「お」	ダンミチ子	30～31
ウインの家庭と音楽	秋谷マリエ	32～36
支那でみた街頭音楽	宮尾しげを	37～41
音楽界彙報		42
音楽についての随想—接触の美—	大江満雄	43～47
初秋<詩>	岩佐東一郎	48～49
音楽は何うして放送されるか	藤井一市	50～57
ケーテンに於けるバッハの名曲	大塚晋一郎	58～61
擬音物語	安藤清	62～65
西洋音楽史概説(三)	カール・ネッフ 牧定忠訳	66～71
■鳥の歌と科学 ■産業戦士の競演		71
切符制 其他	河内三郎	72～73
初秋の思ひ	片山頼太郎	74～78
市民音楽院その後	多忠烈	79～83
歌唱随感	岡村勝	79～83
ロシヤ民謡(三)	テー・ポポーワ 多田恒夫訳	84～90
レコード界		91
ピアノの起源・変遷について(二)	宮内鎮代子	92～96
黄八丈	平原壽恵子	97～101
■銃後伊太利の音楽 ■満洲楽壇の一元化 ■		101
国楽研究会		
女学生の音楽教育学(三)	小泉洽	102～110
夏期鍛錬期間その他	田宮虎彦	111～115
編輯後記		116

## 『音楽教育研究』

## 第3巻第9号(1941年10月号)

【巻頭楽譜】病院船の歌	西澤都彌子作詞 渡鏡子作曲	0(1)
音楽新体制について	辻莊一	2～8
時局と音楽教育者	田村虎藏	9～12
古典派音楽と浪漫派音楽の限界	屬啓成	13～16
音楽の音・雑音の音—音感教育私観—	兼常清佐	17～22
軍歌の記録・二件	堀内敬三	23～26
工場と音楽(神奈川県をめぐるとの記)	片山頼太郎	27～32
工場をめぐりて	佐藤美子	33～38
ピアノ伴奏に於ける初見の要領	和田肇	39～40
パリーの音楽	牧嗣人	41～47
音楽界彙報		48～49
シュエスター・ゲートルードとベートーヴェンのロン	原田光子	50～56
放送合唱団の事あれこれ	岡本敏明	57～59
「音曲玉淵集」と「声曲類纂」	藤田徳太郎	60～63
東京放送管絃楽団を語る	前田[たまき]	64～68
レコード界		69
季節と風<詩>	乙寺與志夫	70～71
冬の鐘・夏の鐘	深尾須磨子	72～77
東北民謡を聴く[(二)]	藤井清水	78～81
■台湾音楽の改調		81
明暗	河内三郎	82～83
現代の独逸国民音楽	エルンスト・プツェル 三浦鞆郎訳	84～89
ロシヤ民謡(四)	テー・ポポーワ 多田恒夫訳	90～95
カザックとウクライナ民謡		95
社団法人日本音楽文化協会定款		96～99
編輯後記		100

## 『音楽教育研究』

## 第3巻第10号(1941年11月号)

【巻頭楽譜】産業報国青年隊隊歌(第一曲)	藤澤克己作詞 山田榮一作曲	0(1)
地方文化と音楽	松尾要治	2~6
日本に於ける楽器政策	川上嘉市	7~13
素人故の暴論	山崎謙	14~19
次代を背負ふ国民学校の児童と音楽教育	中野義見	20~26
音感と生活	百田宗治	27~29
児童に与へる音楽	岡村眞佐留	30~31
少国民文化の興隆と童歌劇—国民音楽促進の一翼として—[(一)]	江田一郎	32~38
八橋検校の百回忌頌徳碑	木村捨三	39~41
支那民衆と音楽	瀧遼一	42~48
音楽随想	宮澤縦一	49~51
伊豆の町<詩>	野長瀬正夫	52~53
フ란ツ・モーザー先生を憶ふ	尾高尚忠	54~60
東北民謡を聴く[(三)]	藤井清水	61~63
ライブチヒに於けるパッサ	大塚晋一郎	64~68
音盤について	細井勇	69~73
西洋音楽史概説(四)	カール・ネッフ 牧定忠[訳]	74~81
日露の戦役七八年過ぎ	與田準一	82~88
古典・浪漫・現代音楽	西田直道評	88
編輯後記		89

『音楽教育』 \* 『音楽教育研究』改題  
第3巻第11号(1941年12月号)

【巻頭楽譜】興亜大行進曲「アジヤの力」	大政翼賛会 大日本興亜同盟 日本放送協会撰定	0(1)
国民学校の音楽指導者に望む	田村虎藏	2~6
我芸能科音楽の展望	草川宣雄	7~11
音楽と音響学	栗原嘉名芽	12~19
学校唱歌劇	弘田龍太郎	20~25
国民学校芸能科音楽授業所見	岡村勝	26~27
少国民文化の興隆と童歌劇—国民音楽促進の一翼として—[(二)]	江田一郎	28~32
ハーモニカの文化的価値	宮田東峰	33~36
防諜と音楽	久野豊彦	37~43
邦楽と舞踊についての随想	若狭萬次郎	44~46
新しい日本歌劇をこゝろみるもの	神宮寺雄三郎	47~52
日本音楽文化協会の発足		52
改題の言葉		53
冬について<詩>	大島博光	54~55
彼岸の追想	池内友次郎	56~61
■「軍艦マーチ」の父 故瀬戸口翁追悼献楽式		61
レコードの鑑賞	上山敬三	62~65
文化映画の音楽	久保田公平	66~74
支那人と音楽	安藤徳器	79~85
名笛抄	乙寺與志夫	86~89
ピアノの起源・変遷について(三)	宮内鎮代子	90~96
■第十回音楽コンクール入賞者		96
勤労青少年と音楽	間仁田幸三	97~101
工場と音楽	小西乾太郎	102~106
第一回全国勤労者音楽大会に就いて	太田通	107~109
ロシヤ民謡(五)	テー・ポポーワ 多田恒夫訳	110~115
編輯後記		116

『音楽教育』  
第4巻第1号(1942年2月号)

【巻頭楽譜】汗をうたへる	久保徳二作詩 清水修作曲	0(1)
--------------	--------------	------

時局と教育者〈巻頭言〉		2～3
芸能科音楽の進展	井上武士	4～6
音楽に於ける劣等感の克服	片山穎太郎	7～11
初等音楽教育界	近森一重	12～13
私はかうして日本語の歌を教へる	内田榮一	14～16
私はかうして日本語の歌を教へる	四家文子	17～21
日本上代の音楽	三條商太郎	22～27
名曲鑑賞教育の実際〔1〕	久保田公平	28～33
米英系音楽の閉め出し		33
東京市国民学校芸能科音楽授業巡り	岡村勝	34～36
数学者の音楽談	森本清吾	37～43
音楽の総力戦体制		43
〈随想〉春昇地唄ばなし	富崎春昇	44～45
神の如く静けしく詩	佐藤惣之助	46～47
ギターを手ほどきする	伊藤翁介	48～55
〈随想〉わが国の琴の書	藤田徳太郎	56～60
タイ音楽の楽器編成	黒澤隆朝	65～71
明暗	河内三郎	72～73
大日本頌歌〈詩〉	南江治郎	74～79
大戦と独逸国民音楽	エルンスト・プツェル 野本祥治訳	80～83
〈随想〉「狂言」に就いて	山本東次郎	84～89
■音盤界の新発足 ■瀕死の白鳥		89
中継放送に就いて	藤井一市	90～96
原始音楽(一)	R・ヴァルラシエク 小泉洽訳	97～108
芸能科音楽の鑑賞教育に就て	瀧田清	109～113
農村音楽指導の一分野	橋本與四雄	114～117
編輯後記		118

## 『音楽教育』

## 第4巻第2号(1942年3月号)

【口絵写真】「怠け蜂とリンダ」より		0(1)
【巻頭楽譜】文部省撰定国民学校重音唱歌 海		0(2)
いてふ 冬景色 朧月夜 故郷 夜の梅		
文部省撰定国民学校初等科五・六年用重音唱歌	下總皖一	0(3)
教育の維新〈巻頭言〉	片山穎太郎	2～3
我が国の音楽教育	牛山充	4～10
音楽教育者の奮起を望む	永井幸次	11～13
特輯 城多又兵衛教授に国民学校音楽の「発音	岡村勝	14～23
及聴音」をさく		
技術・方法・精神	中野義見	24～29
ピアノを指導する	井口基成	30～32
ピアノを指導しつつ	東貞一	33～38
スランプ状態にある教育音楽 —続「音楽に於ける	片山穎太郎	39～43
劣等感の克服」		
ハフト教育	和田信賢	44～49
東京市国民学校音楽授業参観記		50～51
蒼穹にひらく〈詩〉	乙寺與志夫	52～53
時局下の放送芸能	川口劉二	54～57
詩の朗読に就て		
朗読詩の方向	長田恒雄	58～62
詩の朗読に就て	前田鐵之助	63～68
朗読詩運動に就て	笹澤美明	68～77
故岡野貞一君の逝去を悼む 付・故岡野貞一氏	田村虎藏	78～80
岡野貞一先生を悼む	井上武士	81～84
■徳山[王連]氏逝く		84
西洋音楽史概説(五)	カール・ネッフ 牧定忠[訳]	85～92
■第十一回「音楽コンクール」作曲課題		92
童歌劇「怠け蜂とリンダ」上演後記 作曲・演出者と	江田一郎	93～100

シンガポールに凱歌はあがる 無限輪唱 [楽譜]	大政翼賛会標語 片山穎太郎作曲	101
国民合唱 此の一戦 [楽譜]	大政翼賛会標語 信時潔作曲	102
岩手十年の記	新野仁助	103~107
瀬戸口藤吉翁を悼む	永田晴	108~111
原始音楽(二)	R・ヴァルラシエク 小泉洽訳	112~117
工場音楽の指導	高橋澤五郎	118~123
編輯後記		124

## 『音楽教育』

## 第4巻第3号(1942年4月号)

【巻頭楽譜】程満光のうたへる	程満光絶筆 朝日新聞社訳詞 片山穎太郎作曲	0(1)
【巻頭楽譜】あゝ此の王国には(童歌劇「怠け蜂とリンダ」より)	江田一郎詩・作曲	0(2)
教育音楽と教育<巻頭言>	片山穎太郎	2~3
芸能科音楽の諸問題	小松耕輔	4~7
■音楽学校師範科の年限延長		7
教育音楽者への感謝と策励	川上嘉市	8~14
南方の音楽工作		14
芸能科音楽の一年	吉田照十方	15~22
■第一回室内音楽作品発表会		22
井上武士氏に国民学校音楽の「教授法・教材指導	岡村勝	23~32
法の実際」を聴く		
中学校と音楽	柏木俊夫	33~39
「声明」の話	吉田恒三	40~45
或る空間<詩>	勝承夫	46~47
音楽師範教育の新時代的適応に就て		
I	牛山充	48~52
II	草川宣雄	53~59
III	松井力	59~64
IV	山田辰雄	64~68
北京の一年	寶井眞一	69~74
日本人の音楽	吉村岳城	75~81
私の教へるところの話	酒井悌	82~87
「信州と音楽」を語る	町田等	88~91
大東亜の理念と情操を育む童謡	島田芳文	92~98
童歌劇「怠け蜂とリンダ」上演後記 続	江田一郎	99~111
西洋音楽史概説(六)	カール・ネッフ 牧定忠訳	112~119
国民学校に於ける簡易楽器の指導に就て	若松盛治	120~123
編輯後記		124

## 『音楽教育』

## 第4巻第4号(1942年5月号)

【巻頭楽譜】Indonesia Raya		0(1)
インドネシア・ラーヤ<解説>	青木正	0(2)
捨身の教育<巻頭言>	片山穎太郎	2~3
国民学校音楽の実際と大東亜問題	小松耕輔	4~8
芸能科音楽の第二年	井上武士	9~14
国民学校音楽に於ける「音色・日本音階・形式」に就て 下總皖一氏に聴く	岡村勝	15~23
大東亜戦下に於ける教育音楽の放送	沖不可止	24~27
初等音楽教育界	近森一重	28~31
楽才と教育	佐藤隼夫	32~35
■新生する「日本交響楽団」		35
カムパニヤの子守唄	天野秀延	36~38
楽譜指導我観	上田友龜	39~45
「雅楽」の話	三條商太郎	46~51
邦楽新展開への待望	大島宗考	52~59

楽音とは何か・騒音とは何か —「音響学の常識」守田榮	60～67
第一講—	
青年学校に於ける音楽的陶冶	遠藤喜美治 68～72
西洋音楽史概説(七)	カール・ネッフ 牧定忠[訳] 73～77
「ヨハネ受難曲」と「マタイ受難曲」	大塚晋一郎 78～81
鈴木米次郎先生を語る	伊達愛 82～86
樺太の音楽教育	朝倉光子 87～92
吹奏楽の音調整備に就て	廣岡九一 93～99
小松耕輔著 シューベルト(楽聖伝記叢書)[く紹介をかむらと批評]	99
<文化時評> 南方文化工作について	南江治郎 100～102
青葉の中に<詩>	高橋たか子 102
原始音楽(三)	R・ヴァルラシェク 小泉洽訳 103～108
音楽教師となりて	
音楽教育者としての抱負	海老原直 109～112
奉職所感	高岡菊雄 112～114
特別攻撃隊讃歌	115
<時局対話>音楽のお膳立て	秦廻舎たくらくさん 116～120
音楽に就ての断想	鈴木寛 121～126
編輯後記	127

## 『音楽教育』

## 第4巻第5号(1942年6月号)

【巻頭楽譜】夏は来ぬ(国民合唱)	佐々木信綱作詞 小山作之助作曲 片 0(1)
	山頼太郎編曲
【巻頭楽譜】忠霊塔の歌	百田宗治作詞 片山頼太郎作曲 0(2)
文検音楽科予備試験問題 昭和十七年五月	0(3)
歌ふ良寛<巻頭言>	片山頼太郎 2～3
独逸に於ける初等教育音楽	エルンスト・プツェル 牧祥三[訳] 4～11
『初等科音楽』の編纂と運用	
編纂について	小松耕輔 12～18
運用について	井上武士 18～24
澤崎定之教授を囲んで 我が国音楽教育の伝統と芸能の特質を語る[座談会]	澤崎定之 橋本清司 岡村勝 25～38
「昭和交響楽団」について 附・東京市器楽指導研究会の事	沖不可止 39～44
聴覚と音感	東貞一 45～51
「靖国舞」の奉獻	51
邦楽の奥行	平山蘆江 52～57
日本中世芸能の胎生 [其の一]	森末義彰 58～64
音楽と詩の持つ宿命 うつろひ行く音楽のすがた	武川寛海 65～71
鐘<詩>	長田恒雄 68～69
■ワインガルトナー逝く	71
名曲鑑賞教育の実際(2)	久保田公平 72～77
■レコード文化協会 ■南方音楽の音盤化	77
音楽教育界に痛感するもの	栗原泰 78～81
音波の色々な面白い性質—「音響学の常識」第二	守田榮 82～89
原始音楽(四)	R・ヴァルラシェク 小泉洽訳 90～95
ザックス博士の業績	太田太郎 96～104
旅する薔薇の花	武内俊子 105～110
西洋音楽史概説(八)	カール・ネッフ 牧定忠[訳] 111～115
<放送時評>—放送歌謡に就て—	清水二郎 116～119
編輯後記	120

## 『音楽教育』

## 第4巻第6号(1942年7月号)

【巻頭楽譜】大南洋唱歌	くろがね会制定 0(1)
海軍と体操	片山[頼太郎] 2～3

音楽教育と家庭	霜田静志	4~7
第一回男子合唱競演会を聴いて	大和田愛羅	8~11
国民学校音楽の「教授実践の方法」を語る[座談会]	出席者 関根保江 永山文代 古谷孝一 山寺嘉七 若松盛治 岡村勝	12~23
東京市民国民学校「芸能発表会」印象記	東前吉郎	24~29
「中学唱歌」の研究[(一)]	片山颯太郎	30~37
邦楽雑談	高柳光壽	38~44
日本中世芸能の胎生 其の二	森末義彰	45~50
名曲鑑賞教育の実際(3)	久保田公平	51~56
比律賓人と音楽	仲原善徳	57~61
音はどうして出るか。楽器の原理—「音響学の常識」第三講	守田榮	62~69
中島六郎先生を憶ふ		
中島六郎先生の憶ひ	瀬名貞利	70~75
中島先生に音楽を教はつた頃	森本清吾	75~79
中島先生の憶ひ出	篠原雄	80~84
「富山と音楽」を語る	荒木得三	85~89
原始音楽(五)	R・ヴァルラシェク 小泉洽訳	90~95
<放送時評>芸能嘱託・国民合唱	清水二郎	96~101
北の島にて<詩>	乙寺與志夫	98~99
西洋音楽史概説(九)	カール・ネッフ 牧定忠[訳]	102~110
三首の万葉短歌による交声曲 音楽コンクール作曲の入選決定		110
基礎訓練指導経過	岸田一	111~114
編輯後記		115

## 『音楽教育』

## 第4巻第7号(1942年8月号)

【巻頭楽譜】中学唱歌より 旅路の愉快 明日は	片山颯太郎編曲	0(1)
日曜 寄宿舎の古釣瓶 駒の蹄 富士山		
文化の逆封鎖時代<巻頭言>	片山颯太郎	2~3
特異児童と音楽	戸川行男	4~9
楽壇の芸術院会員—安藤、今井、信時、山田の四氏決る		9
国民学校に於ける音楽会への再検討	中野義見	10~16
■満洲へ音楽使節		16
芸術の宣伝的契機	鈴木吉祐	17~22
作曲に於ける日本的なるものに就て		
作曲に於ける日本的性格に就て	下總皖一	23~31
作曲に於ける日本的なものに就て	長谷川良夫	31~37
音楽と学生生活	吉田昇	38~45
旅中小吟<詩>	岩佐東一郎	42~43
「中学唱歌」の研究[(二)]	片山颯太郎	46~51
大衆娯楽の表裏	薄金兼次郎	52~57
日本中世芸能の胎生 其の三	森末義彰	58~63
音響に関する技術—「音響学の常識」第四講—	守田榮	64~71
ベートーベンの絃楽四重奏曲	岡田次郎	72~77
日本の家庭とピアノ	伊達愛	78~83
日本の家庭とピアノ	田中正子	84~90
テオドール・デュボアの「和声学」に就て	平尾貴四男	91~93
名曲鑑賞教育の実際(4)	久保田公平	94~100
原始音楽[(六)]	R・ヴァルラシェク 小泉洽訳	101~106
■第十二回音楽コンクール作曲募集		106
音感覚の心理学的—考察 特に聴覚を中心とする	上代晃	107~112
感覚様相の問題に就いて—		
村の音楽教育—村の音楽家となる記	古武善松	113~119
編輯後記		120

## 『音楽教育』

## 第4巻第8号(1942年9月号)

【巻頭楽譜】天景	萩原朔太郎作詞 野村茂作曲	0(1)
意味を忘れた音楽は<巻頭言>	片山頼太郎	2~3
帝国芸術院(第三部)新会員の横顔		
安藤幸子夫人	牛山充	4~7
「箏の人」今井慶松氏	中能島欣一	7~11
信時潔先生を語る	片山頼太郎	11~15
妥協を排した山田耕筰氏	堀内敬三	15~18
浪漫派音楽の自覚と創造—ロベルト・シューマンに	吉田秀和	19~24
ついて		
ヒンデミット先生の事ども	中瀬古和	25~30
海豚と軍艦<詩>	上田穆	28~29
耳に聴えぬ音の話—「音響学の常識」第五講—	守田榮	31~37
私の歌唱指導 主として躰について	岡村勝	38~41
もつとまじめに、しんけんに一全新内人に寄せる言	岡本文彌	42~45
源氏物語に現はれた音楽—「若菜」下の巻の音楽	藤田徳太郎	46~51
に就て		
特輯 音楽実践のコツ		
伴奏の技術に就て	萬澤恒	52~58
音楽教授法	上田友龜	59~64
吹奏楽指導	深海善次	65~69
絃楽合奏の仕方	酒井悌	70~76
工場合唱の指導に就て	野村茂	76~81
レコード吹込	鳴海信輔	82~87
音感教育の遊戯化	一宮三千子	88~92
民謡採譜法	藤井清水	93~102
原始音楽〔七〕	R・ヴァルラシェク 小泉洽訳	103~108
放送の懐古趣味	清水二郎	109~111
ミハルスに依る律動訓練の系統案	山寺嘉七	112~115
編輯後記		116

## 『音楽教育』

## 第4巻第9号(1942年10月号)

【巻頭楽譜】満洲国国歌	満洲帝国政府制定	0(1)
【巻頭楽譜】「中学唱歌」より 荒城の月 馬上	片山頼太郎編曲	0(2)
の少年 豊太閣 初旅		
教育音楽者の健歩<巻頭言>	片山頼太郎	2~3
局外者は斯く音楽に望む		
物的設備と人的設備の完成を	佐藤隼夫	4~7
音楽のマイナス的要素への考案を	松永安彦	8~13
作曲に於ける血液と民族意識の参加	伊福部昭	14~20
歌ふ事と国民生活 「歌曲ヲ正シク歌唱シ」の心理	柴山剛	21~27
学的考察		
少年<詩>	武内俊子	24~25
日本文学の朗読とその種々相	藤田徳太郎	28~33
箏曲の手ほどき今昔	藤田斗南	34~38
少年時代のシュヴァイツァー	津川主一	39~45
私の歌唱指導 声音の練磨と教育の目標	岡村勝	46~48
「中学唱歌」の研究	片山頼太郎	50~53
モーツァルトの室内楽	岡田次郎	54~59
音楽通論(田辺尚雄著)[<紹介と批評>]		59
中支見聞記	井上武士	60~65
大連に於ける音楽教育の現状	熊野力王	66~70
名曲鑑賞教育の実際(5)	久保田公平	71~81
「まじりまる」抄 豊原時元と源義光の芸道秘説に	乙寺與志夫	82~87
原始音楽(八)	R・ヴァルラシェク 小泉洽訳	88~93
芸能科音楽への苦言	神鳥高光	94~96

軍艦行進曲記念碑 模型まづ完成	97
編輯後記	98

## 『音楽教育』

## 第4巻第10号(1942年11月号)

【口絵写真】敦煌出土大方便報報恩経変相図 龜 茲古都壁画	0(1)
【口絵写真】教学ニ関スル御沙汰	0(2)
【巻頭楽譜】愛国の花(国民歌謡)	福田正夫作詞 古關裕而作曲 片山穎太郎編曲 0(3)
合唱への讃辞<巻頭言>	片山穎太郎 2~3
これからの音楽者が教養してほしい方向	牛山充 4~10
修了式(卒業式)の歌詞募集	10
女学校の音楽	安藤高 11~13
■職場の音楽競技	13
新制師範学校の音楽教育に待望する【座談会】	大和田愛羅 小島喜久壽 鳥居忠五郎 14~33 松本寛郎
■映画音楽の改善	33
西域音楽東伝の跡を探ねて	岸邊成雄 34~40
音楽教育の一転期	松島彝 41~46
美しい日のために<詩>	野長瀬正夫 44~45
ピアノを幼い人達に教へる仕方[(一)]	伊達愛 47~51
アイウエオの歌 [楽譜]	日本放送協会(採譜者 片山穎太郎) 52~53
厚生音楽の諸問題	
厚生事業と音楽	牧哲夫 54~58
厚生音楽と指導者の問題	清水脩 59~63
工場の合唱	木川靖 64~66
幼年期のリズム訓練と其の実際	天野蝶 67~72
中学生と詩を読みながら	榊原美文 73~78
放送の性格	清水二郎 79~81
音楽者気質	
一途の道	唐端勝 82~85
現実に飛翔する	上山敬三 85~89
我流で創る音楽	兼常清佐 89~92
原始音楽(九)	R・ヴァルラシェク 小泉洽訳 93~99
編輯後記	100

## 『音楽教育』

## 第4巻第11号(1942年12月号)

【口絵写真】第四回女子中等学校合唱競演会	0(1)
【口絵写真】瀧廉太郎氏 新清次郎氏	0(2)
【巻頭楽譜】大波の	北白川宮永久王殿下御歌 片山穎太郎謹作 0(3)
【巻頭楽譜】わかれ	許渾詩 野村茂作曲 0(4)
大東亜暦第二年と音楽<巻頭言>	片山穎太郎 2~3
世阿彌特輯	
能楽への理解	野々村戒三 4~8
新才能小論 世阿彌の伝書に従つて	土岐善麿 9~13
日本音楽に及ぼした能楽の影響	藤田徳太郎 14~19
第四回女子中等学校合唱競演祭を聴いて	大和田愛羅 20~23
国歌「神楽」に就いて	芝祐泰 24~29
鑑賞教材の研究	近森一重 30~35
瀧廉太郎氏の思ひ出	新清次郎 36~38
音楽教育に於ける知性的要素	三尾砂 39~44
国徳歌<詩>	長田恒雄 42~43
■愛国百人一首	44
「中学唱歌」の研究[(三)]	片山穎太郎 45~50
音楽教育のコツ 読譜訓練の範囲と程度の問題	板垣了助 51~54



ピアノを幼い人達に教へる仕方(二)	伊達愛	55～58
音楽教育随想	山本正夫	59～64
名曲鑑賞教育の実際(6)	久保田公平	65～72
「おゝ雲雀」の合唱を仕上げる話—工場の合唱は	藤澤紫朗	73～78
かうして生れる		
懸賞付き放送・その他	清水二郎	79～81
第十一次音楽コンクール		81
原始音楽(一〇)	R・ヴァルラシエク 小泉洽訳	82～88
音感教育小論	安福健吉	89～95
芸術の教化力 芸術の指導力 (新日本文化—	伊東延吉	96～97
「芸術の問題」より)		
西洋音楽史概説(一〇)	カール・ネッフ 牧定忠訳	98～107
編輯後記		108

## 『音楽教育』

## 第5巻第1号(1943年1月号)

【巻頭楽譜】嘉辰(朗詠による意想曲)	謝偃詩 芝祐泰編曲	0(1)
厳肅なる新春の詞<巻頭言>	片山頴太郎	2～3
音楽教育者への要望	井上武士	4～9
音楽文化高揚のために	唐端勝	10～15
音楽今昔記		
音楽趣味の今昔記	牛山充	16～20
教育音楽今昔記	草川宣雄	21～25
声楽思ひ出話	太田恒子	25～29
作曲今昔記	池内友次郎	30～34
ディスク今昔記	岩崎雅通	35～38
音楽教育の新生面 世界的使命を有する国民音	原繁義	39～44
楽創造への歩み		
美しき朝のうた<詩>	勝承夫	42～43
中島六郎先生の発声法に就て	宇多五郎	45～51
歌のころ—日本人の心からなる歌を	壇道子	52～56
音楽教育雑録 音楽訓導体験記	山下正	57～61
初等科音楽一月教材	平岡均之	62～68
バッハ以前の室内楽	岡田次郎	69～76
この決意[楽譜]	大政翼賛会宣伝部	77
裁断の物指	川上嘉市	78～82
「国民の歌」三部作		82
西洋音楽史概説(十一)	カール・ネッフ 牧定忠訳	83～91
ショパンの芸術と生涯(リスト著 露澤忠枝訳)[<紹介と批評>]		91
南方みやげばなし	關口典之	92～96
原始音楽(十一)	R・ヴァルラシエク 小泉洽訳	97～103
新しき年に期待す	清水二郎	104～107
編輯後記		108

## 『音楽教育』

## 第5巻第2号(1943年2月号)

【巻頭楽譜】春江花月夜	隋煬帝作詩 小村定吉訳詩 野村茂作	0(1)
音楽と魚とアジアの総決起<巻頭言>	片山頴太郎	2～3
時代と教育音楽者	中野義見	4～8
日本に於ける音楽の印象	エ・プツェル 尾崎忍訳	9～13
特輯 日本語声楽に就いて		
日本語唱歌に就いて	澤崎定之	14～17
日本語声楽の三つの問題	四家文子	17～19
日本語と日本人の声楽	城多又兵衛	19～21
日本語による声楽	藪田誠一	22～24
日本語の陰影と内容的表現	神宮寺雄三郎	24～29
正しい日本語の発音とアクセント	壇道子	29～31

■ 国民歌唱運動		31
歌手の立場から	藤山一郎	32～34
箏曲と地歌の変遷	藤田斗南	35～39
文検受験生に与へる言葉	小松耕輔	40～45
文検音楽科予備試験問題 昭和十七年五月		46
鑑賞教材の研究	近[森]一重	47～51
手紙 故北原白秋氏作『城ヶ島の雨』の世に出づ	下二三十	52～55
ピアノを幼い人達に教へる仕方[(三)]	伊達愛	56～60
ヘンデルの絃楽合奏曲	岡田次郎	61～65
ミハルス指導の実際	千葉みはる	66～71
音楽教育の新生面	原繁義	72～77
粉雪に寄せて<詩>	乙寺與志夫	74～75
信時潔氏に朝日文化賞		77
初等科音楽二月教材	平岡均之	78～83
名曲鑑賞教育の実際(7)	久保田公平	84～90
音楽と放送	瀬戸義久	91～94
音楽五十年史(堀内敬三著)[<紹介と批評>]		94
原始音楽(十二)	R・ヴァルラシエク 小泉洽訳	95～99
編輯後記		100

## 『音楽教育』

## 第5巻第3号(1943年3月号)

## 【巻頭楽譜】聖戦三歌

たたかひて	谷馨作歌 片山穎太郎作曲	0(1)
八潮路の	积迢空作歌 片山穎太郎作曲	0(2)
神のゆるしたまはぬ	齋藤茂吉作歌 片山穎太郎作曲	0(3)
<さつてはいけな<巻頭言>	片山穎太郎	2～3
ゲーテと音楽(一)	エルンスト・プツェル クロティルデ・	4～7
音楽教育の体験を語る 其一	プツェル 山口龍夫訳	
かかる日に<詩>	中野義見 (聴き手 岡村勝)	8～14
合唱指導者の注意[(一)]	北村秀雄	12～13
少年団合奏隊	シュウイッケラート 福井直弘訳	15～19
華かなる幻想	廣岡淑生	20～24
初等科音楽三月教材		24
基礎訓練二ヶ年の回顧	平岡均之	25～30
[ピアノを幼い人達に]教へる仕方[(四)]	三嶋安秀	31～33
■ 生れ変る讚美歌 ■ ユンケル翁の誕生日	伊達愛	34～39
地唄研究の頃—『新・京の四季』の追憶		39
鑑賞教材の研究	兼常清佐	40～44
国民学校音楽教室を巡りて	近森一重	45～50
国民学校芸能科音楽巡り	梅澤信一	51～54
撃ちてし止まむ	久木原定助	54～57
特輯 信時潔氏を語る		57
信時潔氏を語る	颯田琴次	58～61
信時潔先生作品年譜略	岡田次郎	62～67
信時さんの事ども	太田恒子	68～69
信時先生と日本的作曲	下總皖一	69～70
教室に於ける信時先生	夏目鏡子	70～71
大伴氏言立 『海行かば』の歌詞に就いて	乙寺與志夫	72～73
海ゆかば	片山穎太郎	74～76
鼻 竹本義太夫出世ばなし	水谷式男	77～79
原始音楽[十三]	R・ヴァルラシエク 小泉洽訳	80～85
<放送時評>音楽性の貧困	清水二郎	86～89
西洋音楽史概説(十二)	カール・ネッフ 牧定忠訳	90～95
編輯後記		96

## 『音楽教育』

## 第5巻第4号(1943年4月号)

【巻頭楽譜】モーツァルトの子守歌(Wiegenlied)	堀内敬三訳詩 W.A. Mozart 二重唱編作片山穎太郎	0(1)
音楽文化〈巻頭言〉		2～3
音楽学校は如何にあるべきか		
本質論による本科の根本的改革	牛山充	4～7
指導者としての教養と技術	堀内敬三	7～9
大東亜に誇り得る音楽学校	山本直忠	9～13
唱歌と讚美歌との交渉	津川主一	14～18
音楽教育の体験を語る 其二	中野義見 (聴き手 岡村勝)	19～26
掌について〈詩〉	高祖保	22～24
■音楽で戦力増強へ		26
合唱指導者の注意〔(二)〕	シュウィツケラート 福井直弘訳	27～32
歌曲表現に関する覚書	浦崎永著	33～37
教案及び教授細目の研究(一)	草川宣雄	38～42
歌の歌ひ方(草川宣雄著)〔〈紹介と批評〉〕		42
シューベルトの歌曲鑑賞1	藁科雅美	43～47
■「明治節奉祝歌」の作曲者杉江氏逝く		47
我国楽譜印刷の過程	白井保男	48～52
初等科音楽四月教材	平岡均之	53～58
■十七年度文化協会賞・毎日賞		58
ゲーテと音楽〔(二)〕	エルンスト・プツェル クロティルデ・ プツェル 山口龍夫訳	59～65
音楽的天賦と他の素質との関係 [其一]	柴山剛	66～70
鑑賞教材の研究	近森一重	71～76
音楽に於ける基礎力の一斑と錬成法	潟田清	77～82
国民学校に於る簡易楽器の 合奏用楽器の編曲 法〔(一)〕	若松盛治	83～86
〈放送時評〉放送余技説	清水二郎	87～89
西洋音楽史概説〔十三〕	カール・ネッフ 牧定忠訳	90～95
編輯後記		96

## 『音楽教育』

## 第5巻第5号(1943年5月号)

【巻頭楽譜】初夢(かにうた)	古歌 片山穎太郎作曲	0(1)
終刊の辞	音楽教育編集部	0(2)
春宵紛思〈巻頭言〉	片山穎太郎	2～3
初等科音楽三・四の編纂と運用について		
編纂について	小松耕輔	4～9
運用について	井上武士	10～15
少国民錬成と童謡	河村光陽	16～20
軍用喇叭とその音楽	春日嘉藤治	21～25
ハイドン絃楽四重奏曲	岡田次郎	26～30
鑑賞教材の研究	近森一重	31～35
季節の花々	壇道子	36～37
浪曲と日本叙事音楽	川喜田長	38～42
一億皆唱の旅 土佐の巻	神宮寺雄三郎	43～48
薫風五月歌〈詩〉	喜多章	46～47
この決意 [楽譜]	大政翼賛会宣伝部	49
合唱指導者の注意〔(三)〕	福井直弘	50～53
瀧廉太郎氏の作品に就いて	新清次郎	54～55
初等科音楽五月教材	平岡均之	56～61
建艦愛国運動へ		61
花のある朝	武内俊子	62～64
ゲーテと音楽(三)	エルンスト・プツェル クロティルデ・ プツェル 山口龍夫訳	65～67
■楽壇挙つて建艦愛国運動へ		67

音楽的天賦と他の素質との関係 其二	柴山剛	68～71
原始音楽(十四)	R・ヴァルラシエク 小泉洽訳	72～79
国民学校に於る簡易楽器の 合奏用楽器の編曲 法 [(二)]	若松盛治	80～85
西洋音楽史概説(十四)	カール・ネッフ 牧定忠訳	86～91
編輯後記		92

(発表)2009年『文献探索2008』(金沢文圃閣)

on WEB <http://home.netyou.jp/ff/nobu/index.html> 「信時潔研究ガイド」